

(参考様式第1-2号) 記載例

生産記録

(緑肥の作付け(カバークロープ、リビングマルチ、草生栽培)の取組)

※リビングマルチの場合は、該当する作物名の口に、■または✓を入れること。

□小麦、大麦、イタリアンライグラス

□小麦、大麦、イタリアンライグラス以外

生産記録については様式を定めていませんが、参考様式として農業者団体が市町村に実施状況報告を提出するにあたり最低限必要な項目をまとめたものです。

※ 生産記録については、生産過程等において使用した肥料及び農薬、導入した技術など要件に即して対象活動を実施したことが確認できれば、「有機 J A S の認証書の写し又は認証期間に提出した書類」や「都道府県等の特別栽培農産物等の認定書の写し又は認定機関に提出した書類」を提出することで生産記録に代えることができますが、記載内容によっては追加で書類の提出を求めたり、必要に応じて内容の確認を行うことがありますので、都道府県や市町村の指示に従ってください。

組織名	環境営農組合
氏名	農林 太郎

ほ場名	実施面積	作物名(5割低減)	対象活動	
ほ場番号①	50a	水稻	カバークロープの取組	(作物名) レンゲ

- ・「実施時期」欄には年月日だけでなく、○月上旬などの時期を記載することも可能です。
- ・作業を実施した時期に幅がある場合は、「○月○日～○日」や「○月上旬～○月中旬」と記入してください。
- ・見込みで報告する場合は目安となる年月日の後に「(見込)」と記入してください。
- ・「播種量」欄は実際の播種量を、「標準播種量」欄はカタログ等に記載された標準播種量を記入してください。

1 緑肥の作付け

作業名	実施時期	播種量(kg/10a)	標準播種量(kg/10a) (注1)	備考
播種	令和○年○月上旬	4	3~4	
農地還元(すき込み)	令和○年○月下旬(見込)			
栽培期間(注2)	約4ヶ月間			

(注1)標準播種量には、カタログや都道府県の栽培技術指針等で示されている播種量を記載すること(播種量は、標準播種量以上の播種を行う必要)。  
(注2)播種から農地還元までの期間を記載すること。

- ・複数ほ場について作成する場合は、交付金の交付金額の算定の基となるほ場面積がわかる書類と突き合わせられるように、通し番号等によって整理してください。
- ・「対象活動」欄は5割低減の取組と組み合わせて行った取組(カバークロープ、リビングマルチ、草生栽培)とその際に播種した作物名について記入してください。
- ・異なるほ場であっても、作業工程や肥培管理が同じ場合は、一枚の生産記録にまとめて記載できます。

2 5割低減の取組

(1)主な作業

作業名	実施時期	備考
播種	令和○年○月上旬	
定植	令和○年○月下旬	
収穫(終了日)	令和○年○月○日	

- ・作業名にある主な作業の実施時期を記入してください。
- ・見込みで報告する場合は目安となる年月日の後に「(見込)」と記入してください。

